



菩提樹



第62号

編集室 〒794-2114
愛媛県今治市吉海町
名2916-2 高龍寺内
TEL 0897-84-2129
FAX 0897-84-4495
Eメール chiho@mg.pikara.ne.jp
責任者 鴨井 智峯

新年のお慶びを申し上げます 高龍寺 院家

早いもので「平成」が終わり「令和」になり、初めての新年を迎える頃となりました。今回の改元は天皇様が崩御されたのではなく生前退位でしたので、日本中が祝賀ムードに包まれ、平成の天皇様は大変素晴らしい判断をなさったと感じ入りました。

「令」はめでたい「和」は平和という意味があり、新天皇様が示された「国民が力を合わせて、よき時代、平和な時代を作り上げていく」という願いに通じるものと思います。

令和が平和で幸せな時代であることを願い、お祈り申し上げます。



※石鏡山のご来光

お墓の六地藏様

高龍寺 西明寺 副住職 鴨井悠真

檀家さんの中で、時々、六地藏様に掛ける前掛けを用意して下さる方がいらっしゃいます。前掛けを綺麗なものに交換してもらったお地藏さまは、心なしか、いつもより嬉しそうな顔をしているように見えます。

本当にありがとうございます。

人は生前の行いにより、地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人道、天道の六つの世界のいずれかに生まれ変わるといわれています。地獄道は鬼たちが悪人にあらゆる方法で懲罰を下す、最も苦しい世界です。餓鬼道は苦しきでいうと地獄道の一步手前、餓鬼として満たされることのない飢えで苦しみ続けます。畜生道は動物として生き、修羅道は修羅として終わりのない戦いの目々に追われ続けます。人道はその名の通り我々人間の世界です。辛いことも嬉しいなことも一緒にある、中間に位置する世界です。天道は天人たちが暮らす、イメージとしては天国に近い場所でしょうか。歌や音楽を楽しみながらとても穏やかに過ごします。余談ですが、この六道の考え方が始まったのは十一世紀ころだといわれています。

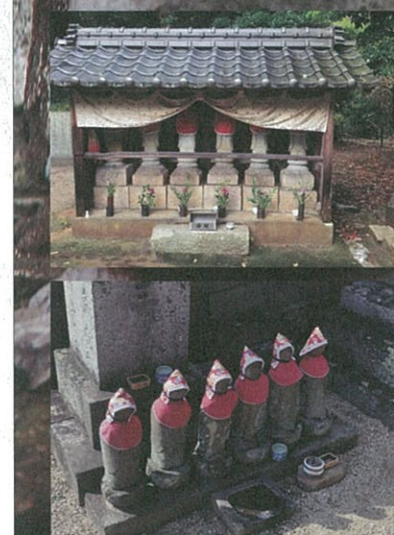
六地藏様は、人がどの世界に行ったとしても必ず見守って下さるといわれ、六つの世界すべてに対応するために六人いらっしゃるのです。見守るだけじゃなくて助けてほしいともいいたくりますが、地獄の懲罰も最終的にはその人のためであり、お地藏様といえども手を出すわけにはいかないのです。

お墓の入り口でよく六地藏様を見かけるのは、そういう理由なのです。ちなみによく知られている三途の川の渡り賃の六文は、実は六地藏様に渡すためのものなのです。

お地藏様は、閻魔大王様と同一人物だともいわれております。優しく微笑んでいるお地藏様と、怒りで顔をゆがませる閻魔様、少しイメージが違いすぎる気がしますね。しかし閻魔様は相手のためを思って怒っているのであって、本当はとても優しい方なのです。

本当に相手のことを思うっているなら、厳しく叱りつけるのも必要ということなのでしょう。

最後になりますが、閻魔様はあの世の裁判官。私たちやご先祖様の来世がどうなるかは、この方の采配に掛かっています。ご先祖様のお墓参りに立ち寄られた際は、是非、お地藏様のご真言「オンカカカビサンマエイソワカ」をお唱え下さい。





お砂踏みと五大明王参り

高龍寺 西明寺 副住職 鴨井悠真

令和元年十月十日、真言宗御室派青年教師会結成四十周年を記念し、仁和寺にて法要が行われました。

観音堂の工事の完成直後であることもあって、多くの方にお参りいただけました。観音堂の工事ですが、古くから残っているお堂を修繕する場合、一度解体し建て直す時には、まるで数百年前から残り続けているようにみせるといふ規則があるそうです。壊れた場所を完全に修復しつつ、修復の気配を感じさせない。職人さん達の技術の素晴らしさが伝わってきます。

九月での団参では予定が合わず参加できなかった方、ぜひ一度お参り下さい。

十月の仁和寺では、敷地内の各お堂に真言宗の他派の僧侶が集まり、法要を行いました。

私は金堂と呼ばれるお堂の中で、お砂踏み参りのお手伝いに参加させていただきました。

お砂踏みとは、真言宗には全部で十八派が存在するのですが、それぞれの本山の砂を踏みしめ拜むことで、本山全てをお参りした時と同じ功德をいただける、というものです。もちろん直接現地にお参りするのが一番ですが、体力的時間的な理由から難しいという方にとても喜ばれています。

お砂踏みと並行して五大明王様のお参りも行われました。有名な不動明王様を筆頭に、人々が道を踏み外さないように見守って下さ

る、五人の明王様の絵が金堂の壁面に直接描かれております。四百年以上前に木村徳応という絵仏師が描いたものが、今でもそのまま残っているのです。照明もつけず、普段は完全に非公開にしている事が、保存には良かったようです。

明王様と言われてもあまり馴染みを感じにくいかもしれませんが、実は一番身近な仏様なのです。

ご法事は回忌ごとに違った仏様が見守ってくださいているのですが、お葬式の後、一番初めに行われるご法事、初七日のお勤めではこの不動明王様が担当されているのです。故人が無事極楽に行けるように、まずは不動明王様がその人の煩惱を焼き尽くしてくれるそうです。

是非お家の御仏壇の前で不動様のご真言「ノウマクサンマンドバザラダン センダンマカロシヤダ ソワタヤ ウンタラタカンマン」をお唱えしてあげて下さい。

この四十年法要は私に大きな充実感と達成感、そして自分の未熟さを痛感させられるという、非常に貴重な経験となりました。

最後になりますが、昨年の春から住職が仁和寺に出ており何かとご迷惑をお掛けして申し訳ありません、檀信徒の皆様の期待にこたえるにはまだまだ力不足の若輩者ではありますが、温かい目で見て頂けると幸いです。